

目次

- | | |
|------------------------------------|------|
| (1) 入学定員設定の考え方 | P. 2 |
| (2) 入学定員充足の見込み | P. 2 |
| (3) 学生確保に向けた具体的な取組（予定を含む。）と見込まれる効果 | P. 3 |
| (4) 養成する人材の社会的要請や人材需要の動向 | P. 3 |

学生の確保の見通し等について

1.入学定員設定の考え方

電気電子工学専攻(以下、「本専攻」という。)の入学定員は63名に設定している。

半導体・情報数理専攻の令和7年度設置に伴い、既存(改組前)の情報電気工学専攻(入学定員103名)の入学定員から40名を半導体・情報数理専攻に振り替える。

振替人数については、情報電気工学専攻の情報工学教育プログラムを履修する学生の2019～2023年度入学者平均が41.4人であることを踏まえ、設定した。<表1>

	入学年度					
	2019	2020	2021	2022	2023	平均
情報電気工学専攻情報工学教育プログラム	37	39	36	37	58	41.4

<表1> 入学年度別履修者数

以上のことから、既存(改組前)の情報電気工学専攻の入学定員103名から40名を減じた63名を入学定員としている。

2.入学定員充足の見込み

(1)熊本大学工学部からの進学者

本専攻の受験意向を把握するため、本学工学部3年次生573名を対象にアンケート調査を実施した。【資料1】

調査期間:2023年11月13日～2024年1月19日

回答者数:463名(回答率80.8%)

回答内容を分析した結果、以下の①②③全ての条件に合致する回答者は49名(A)であった。

加えて、①②④全ての条件に合致する回答者15名に近5年平均入学率(入学者/合格者)93%を乗じた13名程度(B)の入学者が見込まれる。

- ① 問5の「5. 卒業後の進路について、どのように考えていますか?」の設問に「①大学院に進学」と回答した者
- ② 問6の「次の進学先のうち、どこを受験したいと思いますか?」の設問に「③熊本大学自然科学教育部 電気電子工学専攻(仮称)」と回答した者
- ③ 問7の「設問6で回答した進学先に合格した場合、入学を希望しますか。」の設問に「①入学する」と回答した者
- ④ 問7の「設問6で回答した進学先に合格した場合、入学を希望しますか。」の設問に「②併願校の合否によって判断する」または「③その他状況によって判断する」と回答した者

①の回答者(A) 325名	
①+②の回答者(B) 64名	
①+②+③の回答者(C) 49名	①+②+④の回答者(D) 15名

また、卒業後の進路で大学院に進学と回答した者(上記A)の回答者に占める割合が70%(325名)

/463名)であることから、アンケート未回答者110名のうち77名程度(110名×70%)が大学院に進学することが見込まれる。

次いで、アンケート未回答者のうち大学院に進学することが見込まれる77名に上記の入学希望率(C/Aの割合)15%を乗じると11名、また、入学見込率(D/A×近5年平均入学率93%)を乗じると3名となることから、アンケート未回答者からも14名程度(ウ)の入学者が見込まれる。

(2)外国人留学生

本専攻に関連する既存(改組前)の情報電気工学専攻電気工学教育プログラム及び電子システム工学教育プログラムの2023年度入学者が4名であることから、本専攻においても4名程度(エ)の入学者が見込まれる。(コロナ禍による影響を踏まえ、分析対象を直近の2023年度入学者のみとしている。)

上記の(ア)～(エ)を合計すると、本専攻の入学定員63名を超える80名となり、加えて、他大学・高専からの入学者や社会人からの入学者も確保できると考えており、定員を充足できる見込みである。

3. 学生確保に向けた具体的な取組(予定を含む。)と見込まれる効果

学生確保には、入試の仕組みだけでなく、社会の実情など、正しい情報を共有する機会を増やす必要があるため、web経由での申し込みにより少人数でも、誰でも(学生、保護者など)、何回でも開催するオンライン入試説明会を実施する。また、令和7年度入試に向けて、推薦入学の枠を広げ、特に高専の専攻科、他大学の卒業生等を対象にした自己推薦型入試(書類審査+面接試験)を新設する。以上の取組についてはパンフレットを作成し、積極的に広報活動を行う。

広報にあたっては、本学以外の学校を卒業した学生に十分な情報を与え、また内部進学生と比較して不利な試験とならないように周知し、学生確保につなげる。

博士前期課程においては、アジア地区7大学との間でダブルディグリープログラムを締結しており、締結している大学との情報共有を密に行い、留学生を積極的に獲得する。

また、様々な既存の奨学金制度に加えて、令和6年度から半導体関連研究に従事する成績優秀な学生にはTSMC奨学金、台湾本社でのインターンシップの機会が与えられるなど修学にあたり必要な経済的支援を充実させる。

これらの取組により情報格差、環境格差、経済的格差を是正することで、受験生が増加し、学生確保につなげる。

4. 養成する人材の社会的要請や人材需要の動向

電気工学、および電子工学は高度化する現代社会を直接支える基盤工学である。前者は電気エネルギー問題や環境・デバイス開発の、後者は、計測、信号処理、制御などの基礎であり、日本の産業を支える電気・電子工学分野に対する産業界からの人材需要はますます高まっている。高等教育機関はこの普遍的に重要な工学技術を体系的に学んだ、特に大学院レベルの高度な専門能力を有する人材を継続的に育成し、社会に送り出すことを求められている。

(1)企業等、卒業生・修了生へのアンケート調査

本学工学部卒業生・大学院自然科学教育部修了生の採用実績のある企業等の人事担当者に対して、

本専攻が育成する人材の必要性や採用意向について、アンケート調査を実施した。【資料 2】

調査期間:2023 年 11 月 13 日～2023 年 11 月 24 日

有効回答数:230 社

回答内容を分析した結果、「電気電子工学専攻(仮称)が育成する人材について、実社会で必要だと思われますか?」という設問に対し、「①極めて必要である」と回答した企業等が 185 社、「②どちらかという必要である」と回答した企業等が 39 社であり、回答した企業等の 90%以上が本専攻が育成する人材の必要性を評価している。

また、「電気電子工学専攻(仮称)を修了した学生の採用意向について」の設問に対し、「①是非採用したい」と回答した企業等が 177 社、「②採用に向けて前向きに検討したい」と回答した企業等が 38 社であり、回答した企業等の 90%以上が本専攻修了生を採用する意向を示している。

加えて、「リカレント教育、リスクリングの観点から、貴社・貴団体の社員・職員を本学大学院に入学させたいと思われますか?」という設問に対し、「電気電子工学専攻に入学させたい」と回答した企業等が 33 社あり、リカレント教育、リスクリングの観点からも一定の評価を得ている。

次いで、本学工学部卒業生・大学院自然科学教育部修了生についても、本専攻が育成する人材の必要性について、アンケート調査を実施した。【資料 3】

調査期間:2023 年 11 月 13 日～2023 年 11 月 24 日

有効回答数:344 名

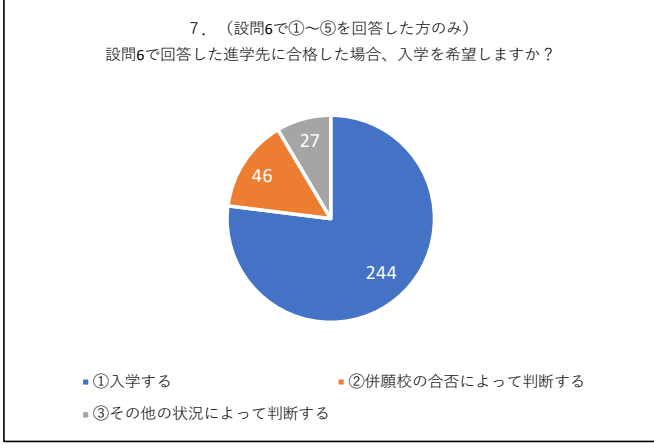
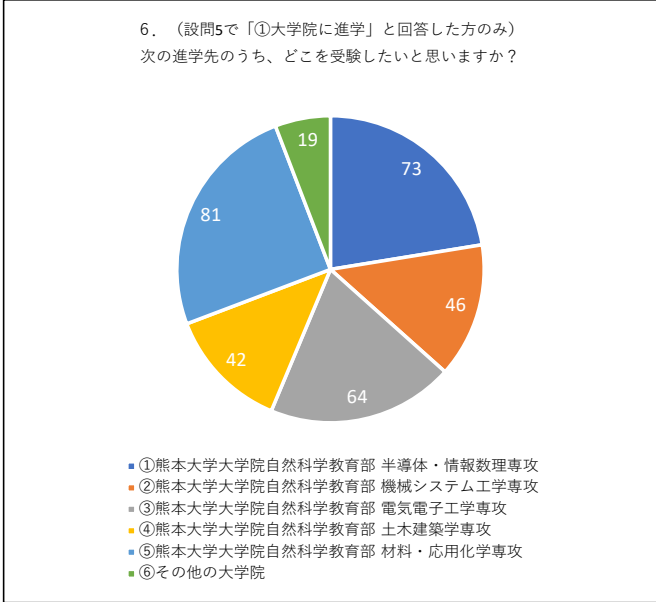
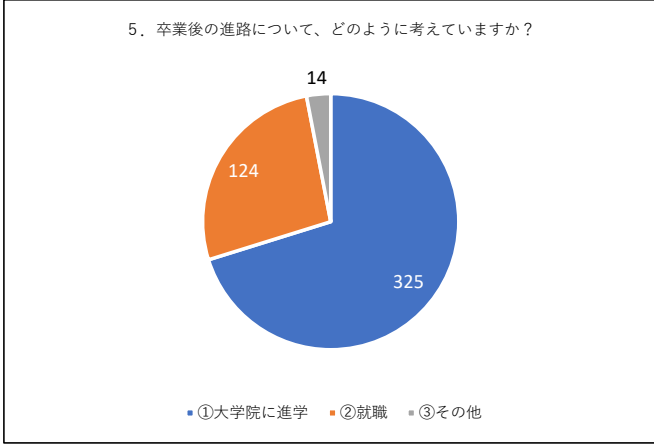
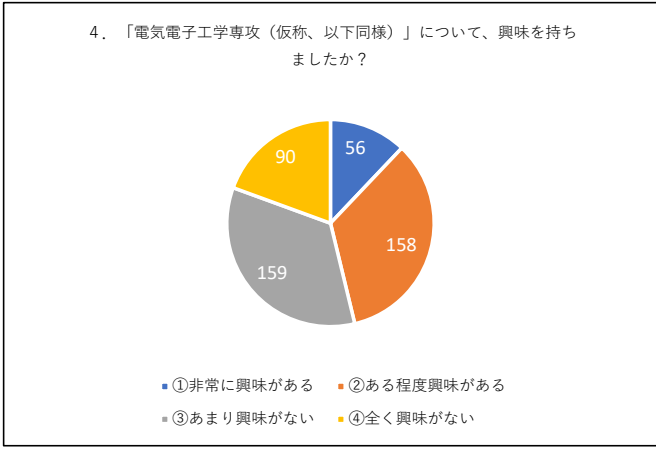
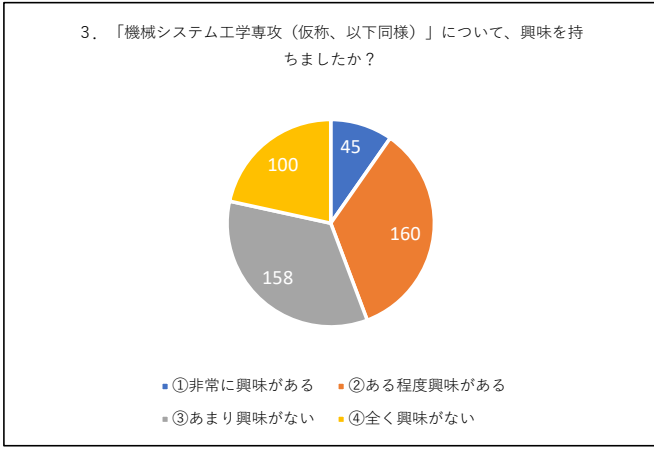
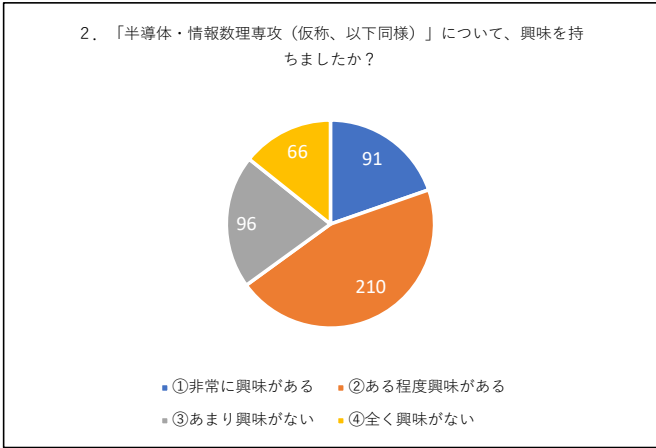
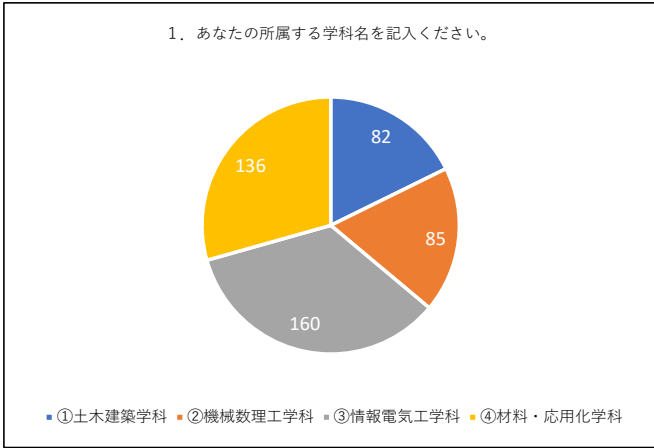
回答内容を分析した結果、「電気電子工学専攻(仮称)が育成する人材について、実社会で必要だと思われますか?」という設問に対し、「①極めて必要である」と回答した者が 186 名、「②どちらかという必要である」と回答した者が 131 名であり、回答した者の 90%以上が本専攻が育成する人材の必要性を評価している。

以上のことから、本専攻が育成する人材については、社会的要請に応えるものとなっており、社会的な人材需要の見通しを踏まえた計画である。

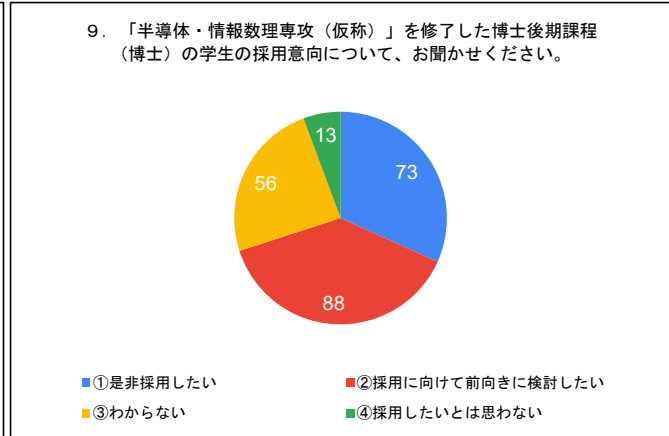
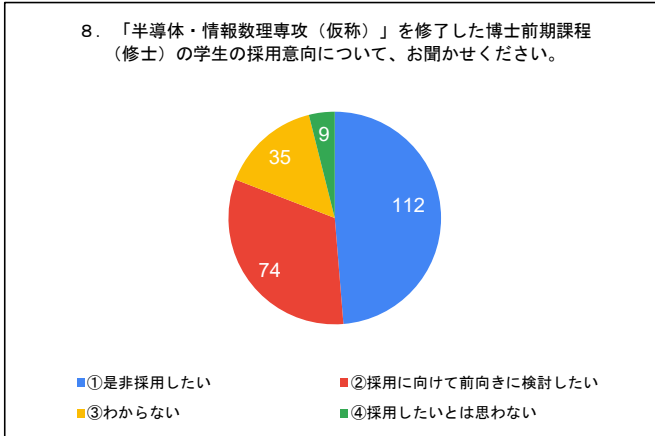
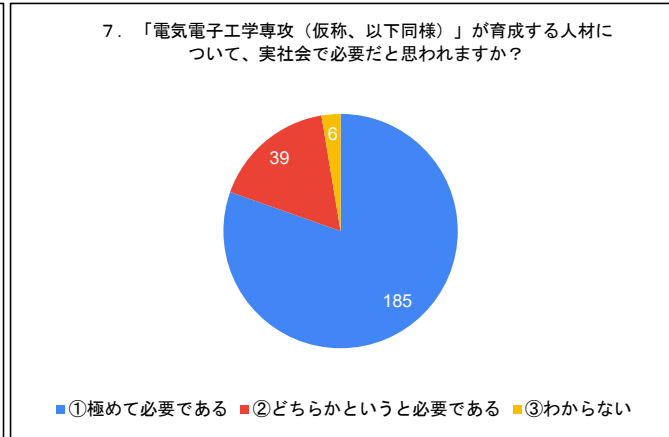
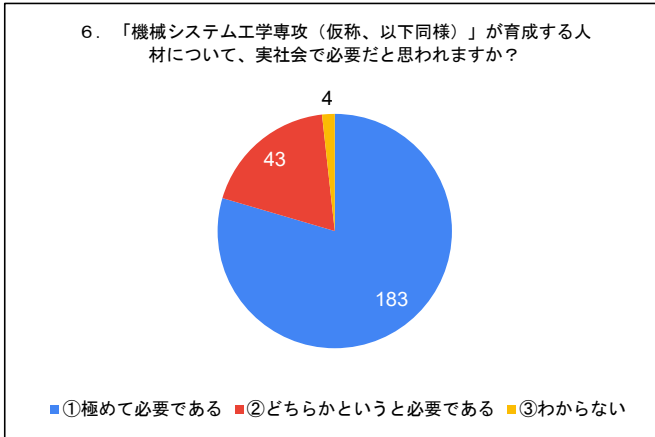
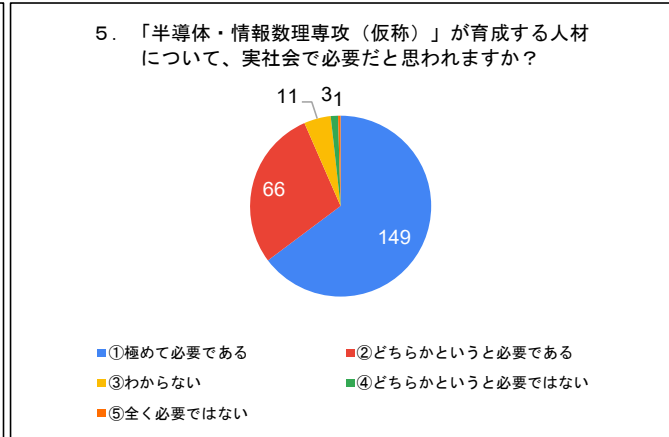
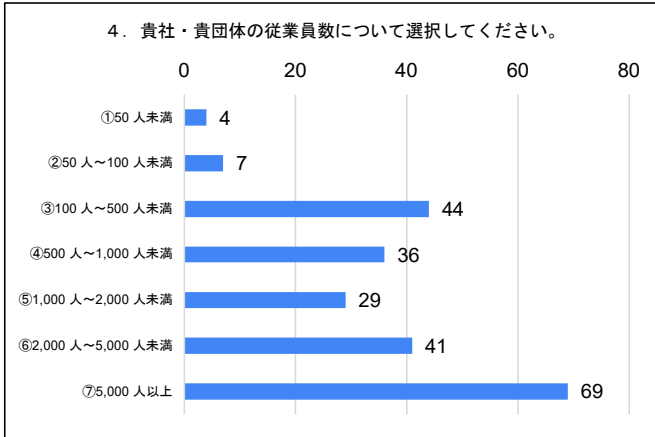
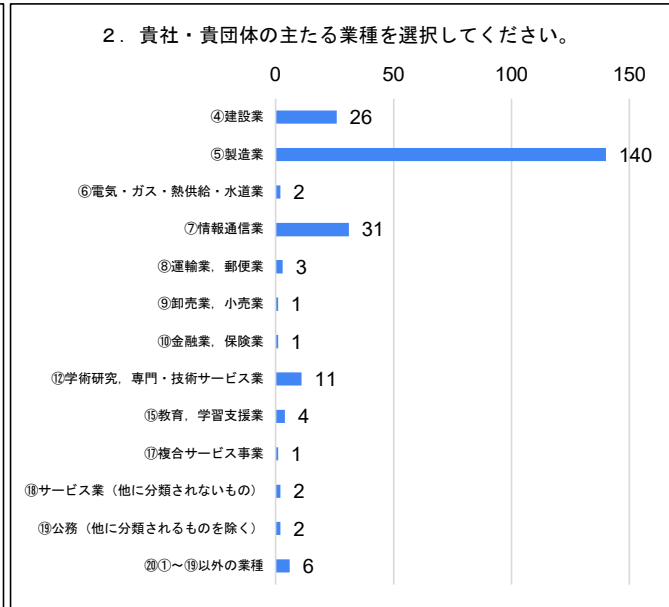
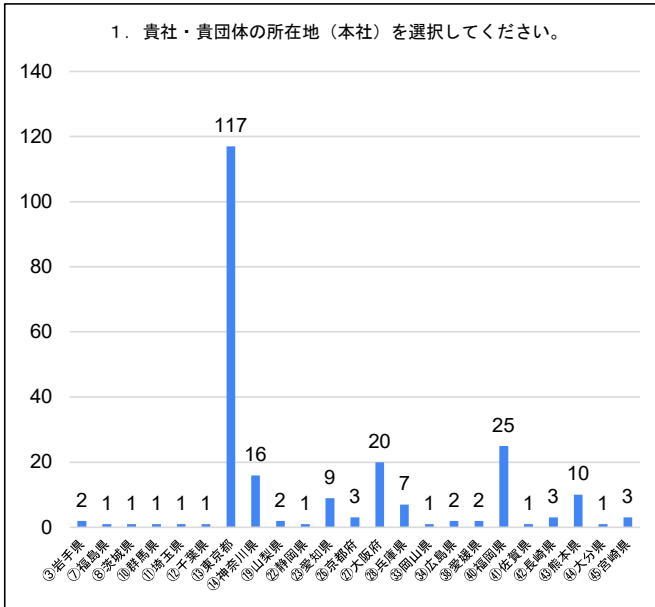
資料目次

資料 1	熊本大学工学部 3 年次生へのアンケート調査結果	P. 2
資料 2	企業等へのアンケート調査結果	P. 5
資料 3	卒業生・修了生へのアンケート調査結果	P. 13
資料 4	アンケート調査時に配付した概要資料及びアンケート調査項目	P. 22

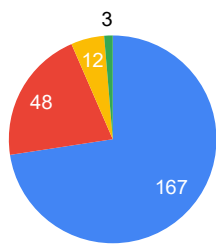
熊本大学工学部3年次生へのアンケート調査結果



企業等へのアンケート調査結果

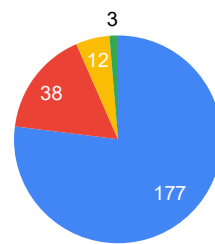


10. 「機械システム工学専攻」を修了した学生の採用意向について、お聞かせください。



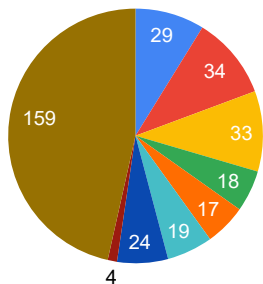
■①是非採用したい ■②採用に向けて前向きに検討したい
■③わからない ■④採用したいとは思わない

11. 「電気電子工学専攻」を修了した学生の採用意向について、お聞かせください。



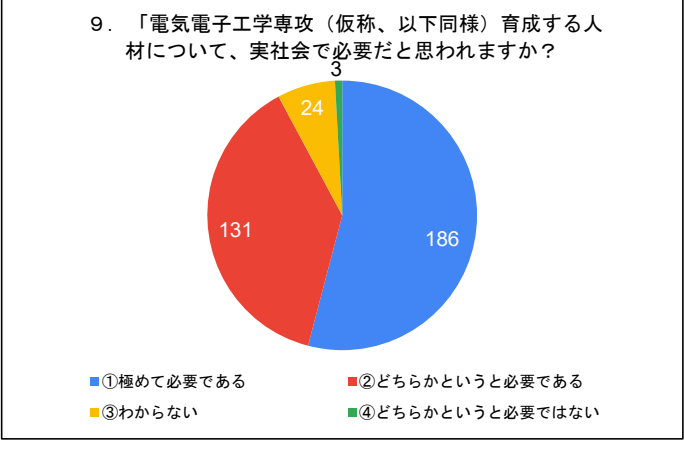
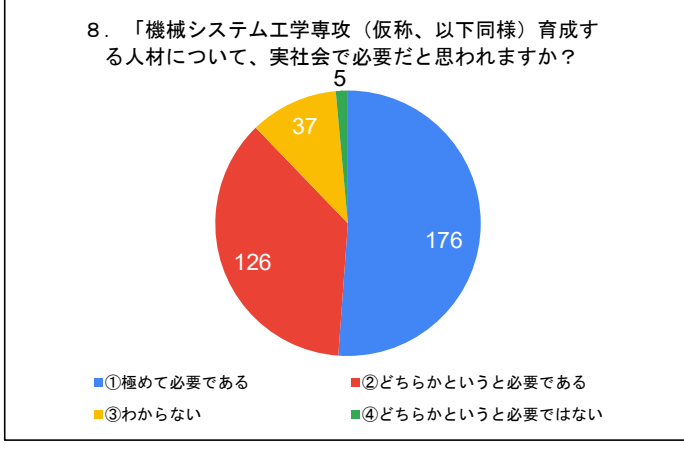
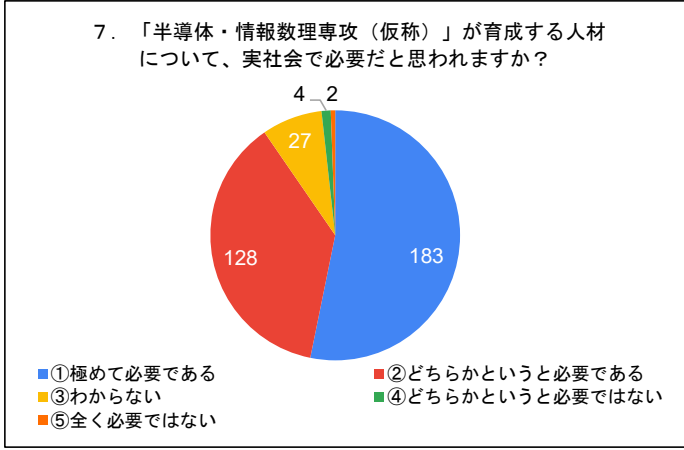
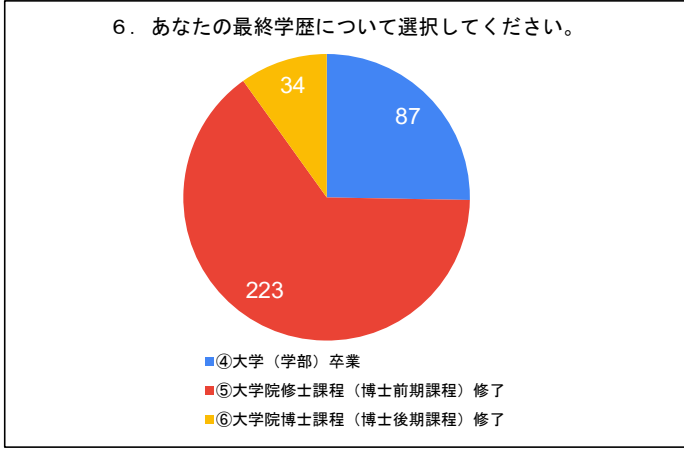
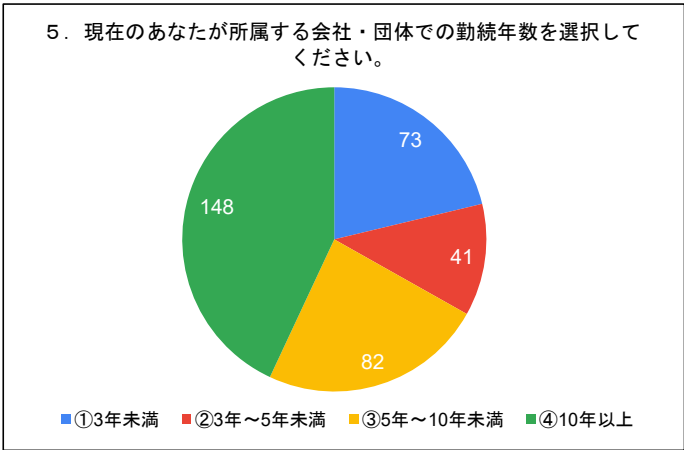
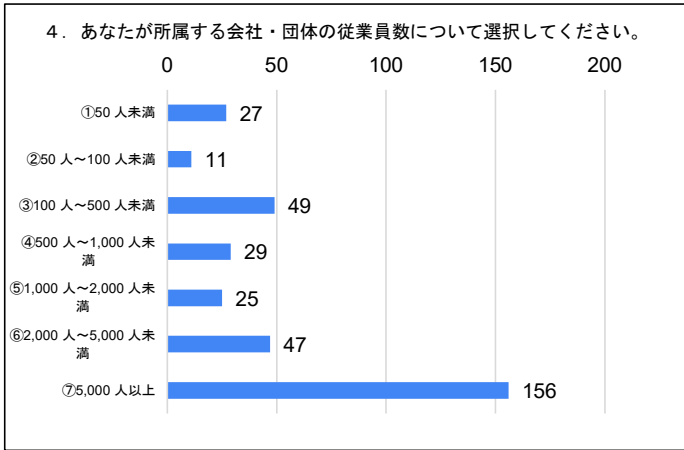
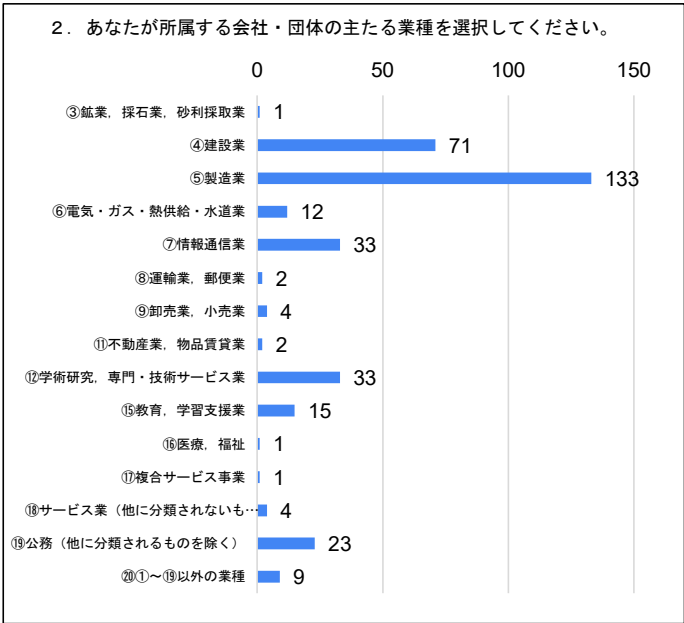
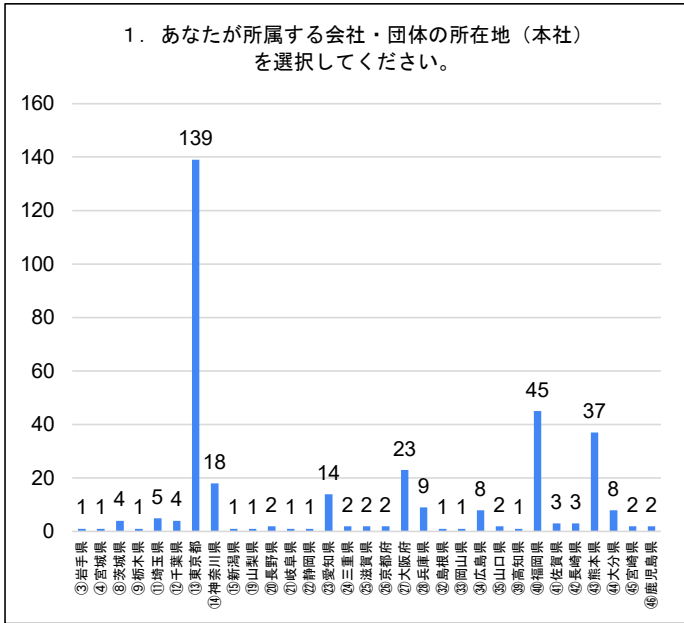
■①是非採用したい ■②採用に向けて前向きに検討したい
■③わからない ■④採用したいとは思わない

12. リカレント教育、リスキリングの観点から、貴社・貴団体の社員・職員を本学大学院に入学させたいと思われますか？（複数回答可）

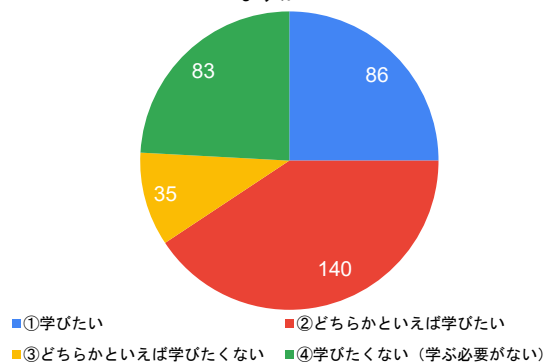


■①半導体・情報数理専攻に入学させたい(修士)
■②機械システム工学専攻に入学させたい(修士)
■③電気電子工学専攻に入学させたい(修士)
■④土木建築学専攻に入学させたい(修士)
■⑤材料・応用化学専攻に入学させたい(修士)
■⑥半導体・情報数理専攻に入学させたい(博士)
■⑦工学専攻に入学させたい(博士)
■⑧①～⑦以外の大学院に入学させたい
■⑨検討していない

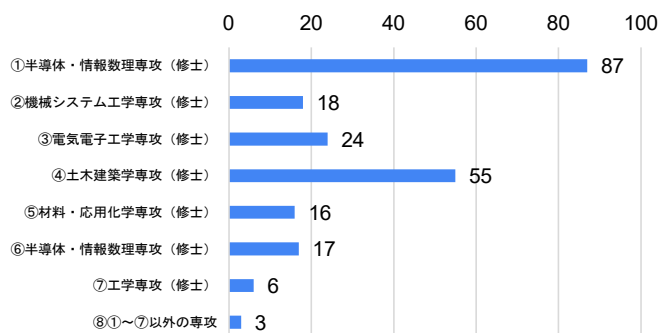
卒業生・修了生へのアンケート調査結果



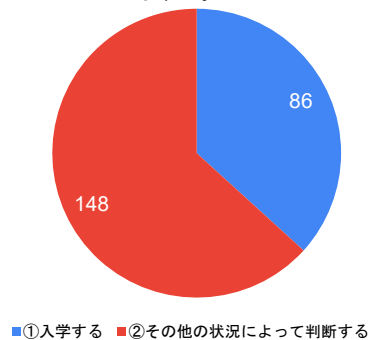
10. 熊本大学大学院自然科学教育部で学びたいと思いますか？



11. (設問10で①または②と回答した方のみ) どの専攻を受験したいと思いますか？



12. (設問11で①～⑦を回答した方のみ) 設問11で回答した大学院に合格した場合、入学を希望しますか。



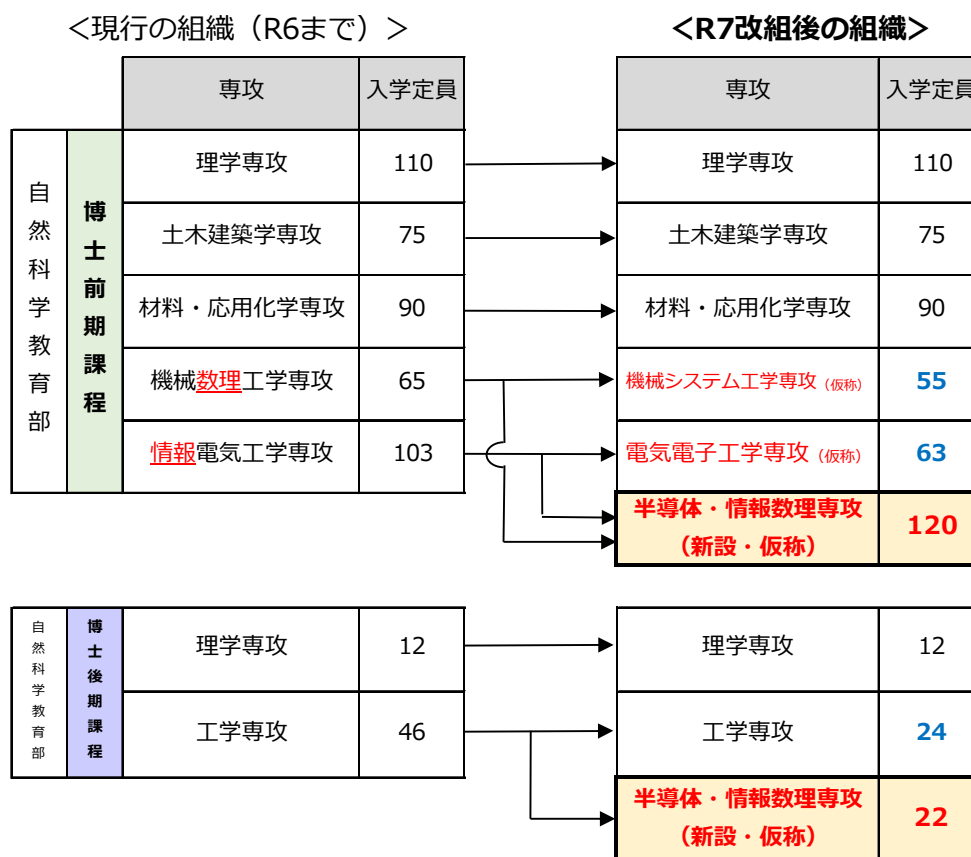
【令和7年4月改組予定】

自然科学教育部改組の概要・理念

熊本大学は、大学院自然科学教育部（博士前期課程（修士）・博士後期課程（博士））に、新たに「**半導体・情報数理専攻（仮称）**」を設置します。

本学では、2030年までを見据えた中長期的なビジョンとして、「熊本大学イニシアティブ2030」を策定し、“地域と世界に開かれ、共創を通じて社会に貢献する教育研究拠点大学”の実現に向けて、「教育」、「研究」、「社会との共創・医療」の3つの戦略を立て、育成する人材像として「DX時代の国際社会で求められるリテラシーを身に付け、多様性に富んだ国際社会における課題に対して解決策を創出し、その実践を主導するための行動力を兼ね備えた世界に通用するDX人材の育成」を掲げ、全学を挙げて「グローバルDX人材」の育成に取り組んでいます。これらの戦略を踏まえ、半導体・DXに関連する教育研究を推進するために、大学院自然科学教育部では、新たに「**半導体・情報数理専攻（仮称）**」を設置します。本専攻の博士前期課程では、学士課程と連携した6年一貫的教育体制の下、数理・データサイエンス、情報工学、半導体デバイス工学に関する確かな基礎学力と論理的思考能力を基盤に、より高度な専門知識・技術を身に付け、社会の持続的発展に貢献できる人材を育成すること、博士後期課程では、地域と国際社会に貢献する指導的役割を担う高度な専門性と研究能力を備えた人材を育成することを目標としています。

「半導体・情報数理専攻」の新設にともない、既存の機械数理工学専攻を「**機械システム工学専攻（仮称）**」へ、情報電気工学専攻を「**電気電子工学専攻（仮称）**」に改組します。機械システム工学専攻では、機械工学にとって基盤となる機械要素技術（熱・流体、エネルギー変換、材料強度、精密加工）および機械システム・プロセス（コンピュータ技術を駆使した信号の計測処理・システム制御）に関する基礎および応用の教育・研究を通して高度な研究能力や課題発見力・解決能力などの実践力を育成します。一方、電気電子工学専攻（仮称）では、電気工学分野（エネルギー、デバイスに関連する科目）を主に履修することで、電気エネルギーに関する諸問題をグローバルな立場から世界をリードして解決できる人材を育成するとともに、計測、信号処理、制御などの電子工学分野の基礎技術を深化したネットワーク化や小型化省電力化などの情報および電気分野の技術を積極的に取り入れ、新しいものづくりを担う実践的人材の育成を行います。



本資料の内容は、構想中のものであり、今後変更する場合があります。

半導体・情報数理専攻（博士前期課程）（新設・仮称）

半導体・情報数理専攻（博士前期課程）（新設・仮称）		学位：修士（工学）または修士（情報学）	募集人員：120名
【育成する人材像】 半導体・情報数理分野に関する確かな基礎学力と論理的思考能力を基盤に、より高度な専門知識・技術を身につけた上で、社会が抱える諸問題を解決するために必要となる新たな技能を学び応用する能力を併せ持ち、創造力かつ柔軟な思考により新たな技術を創出することができる人材を育成します。			
情報数理教育プログラム（仮称）		学位：修士（工学）または修士（情報学）	
【育成する人材像】 情報を基盤とした社会において必要となる基盤的リテラシー（数理・データに関する科学と工学の基礎と応用の素養）を身につけ、高度情報化社会における基盤・応用技術として位置づけられる情報通信工学や計算機工学などの情報工学全般に亘る分野、確率解析や統計数学などの数理工学全般に亘る分野において、高度な専門能力と高い見識を備え、グローバル化した世界で広い視野と高い倫理観を持って活躍できる高度情報専門技術者・研究者として、1)多様に变化する社会の要請に対し、高度の専門能力を駆使して幅広い視野から柔軟かつ迅速に対応できる人材、2)新しい技術を自ら創出して課題を解決できる創造的能力を備えた人材、3)高度情報化社会をリードする意欲に富み、かつ地域や国際社会への貢献に対する使命感をもった人材を育成します。		【修了後の進路】 大学院博士後期課程進学、IT関連企業、半導体関連企業、金融機関、製造業、流通・サービス、教育関連業、学校教員など	
半導体システム教育プログラム（仮称）		学位：修士（工学）または修士（情報学）	
【育成する人材像】 情報を基盤としたデータ駆動型社会を物理的に支える根幹技術である半導体工学の知識と、同社会の運用において必要不可欠な基盤的リテラシー（数理・データ科学の基礎と応用の素養）を身につけ、大規模集積回路・システムの設計、半導体デバイス・材料・製造プロセス技術などの半導体工学全般に亘る分野において、高度な専門能力と高い見識を備え、グローバル化した世界で広い視野と高い倫理観を持って活躍できる高度専門技術者・研究者として、1)多様に变化する社会の要請に対し、高度の専門能力を駆使して幅広い視野から柔軟かつ迅速に対応できる人材、2)新しい技術を自ら創出して課題を解決できる創造的能力を備えた人材、3)高度情報化社会をリードする意欲に富み、かつ地域や国際社会への貢献に対する使命感をもった人材を育成します。		【修了後の進路】 大学院博士後期課程進学、IT関連企業、半導体関連企業、製造業、教育関連業、学校教員など	

半導体・情報数理専攻（博士後期課程）（新設・仮称）

半導体・情報数理専攻（博士後期課程）（新設・仮称）		学位：博士（工学）または博士（情報学）	募集人員：22名
【育成する人材像】 半導体、情報、応用数理およびその関連分野で、基礎的な研究を重視しつつ、高度化している最先端の技術とその背景となる理論を修得し、さらに進化させることによって、創造的かつ実践的に学問の発展、人類の福祉に主導的に貢献できる人材を育成します。			
先端情報数理教育プログラム（仮称）		学位：博士（工学）または博士（情報学）	
【育成する人材像】 情報を基盤とした社会において必要となる基盤的リテラシー（数理・データに関する科学と工学の基礎と応用の素養）を身につけ、数理・データサイエンス、情報工学の素養を基盤として、各専門分野で自立し、かつ、地域と国際社会で指導的役割を發揮できる高度情報専門人材を育成します。特に、情報通信、応用数理およびその関連分野で、高度な専門能力と高い見識を備え、創造的かつ実践的に学問の発展や人類の福祉に寄与することのできる人材を育成します。		【修了後の進路】 IT関連企業、半導体関連企業、金融機関、製造業、流通・サービス、教育関連業、国内外の大学・研究機関など	

本資料の内容は、構想中のものであり、今後変更する場合があります。

先端半導体システム教育プログラム（仮称）	学位：博士（工学）または博士（情報学）
<p>【育成する人材像】</p> <p>情報を基盤としたデータ駆動型社会を物理的に支える根幹技術である半導体工学の知識と、同社会の運用において必要不可欠な基盤のリテラシー（数理・データ科学の基礎と応用の素養）を身につけ、学士課程および博士前期課程教育で培われた半導体デバイス工学の素養を基盤として、各専門分野で自立し、かつ、地域と国際社会で指導的役割を發揮できる高度専門人材を育成します。特に、半導体工学及びその関連分野で、高度な専門能力と高い見識を備え、創造的かつ実践的に学問の発展や人類の福祉に寄与することのできる人材を育成します。</p>	<p>【修了後の進路】</p> <p>大学院博士後期課程進学、IT関連企業、半導体関連企業、製造業、教育関連業、学校教員など</p>

機械システム工学専攻（博士前期課程）（仮称）

機械システム工学専攻（博士前期課程）（仮称）	学位：修士（工学）または修士（学術）	募集人員：55名
<p>【育成する人材像】</p> <p>機械系に関する基礎から応用までのものづくり教育に取り組み、広く社会で活躍できる高度な研究者・技術者を育成します。特に機械要素技術に基づく機械設計・製作分野と、コンピュータ技術に基づく機械制御分野に分けて教育を行い、今日の産業界の求めに即したものづくりや制御をより高度化した人材を育成します。</p>		
機械工学教育プログラム（仮称）	学位：修士（工学）または修士（学術）	
<p>【育成する人材像】</p> <p>ものづくりの横断的技術である機械工学を、複雑化した社会や環境・エネルギーなどの総合的な視野から捉えることのできる高度な専門能力を有する人材として機械要素技術（熱・流体、エネルギー変換、材料強度、精密加工）及び機械システム・プロセス（コンピュータ技術を駆使した信号の計測処理・システム制御）に関する基礎及び応用に通じた、高い専門性や問題意識及び解決能力を持つ者を育成します。</p>	<p>【修了後の進路】</p> <p>大学院博士後期課程進学、ものづくりの基幹産業となる機械・電機分野などの製造業、IT企業など</p>	
機械システム教育プログラム（仮称）	学位：修士（工学）または修士（学術）	
<p>【育成する人材像】</p> <p>ものづくりの横断的技術である機械システムを、複雑化した社会や環境・エネルギーなどの総合的な視野から捉えることのできる高度な専門能力を有する人材として機械システム・プロセス（コンピュータ技術を駆使した信号の計測処理・システム制御）及び機械要素技術（熱・流体、エネルギー変換、材料強度、精密加工）に関する基礎及び応用に通じた、高い専門性や問題意識及び解決能力を持つ者を育成します。</p>	<p>【修了後の進路】</p> <p>大学院博士後期課程進学、ものづくりの基幹産業となる機械・電機分野などの製造業、IT企業など。</p>	

電気電子工学専攻（博士前期課程）（仮称）

電気電子工学専攻（博士前期課程）（仮称）	学位：修士（工学）または修士（学術）	募集人員：63名
<p>【育成する人材像】</p> <p>電気工学と電子工学は情報社会の基盤となる学術分野であることから、地域や国際社会の高度化に立ちはだかる課題を解決するために、電気・電子工学を基礎とし、グローバルな視点と強いリーダーシップを有する人材が求められており、このような高度専門技術者や研究者の育成が不可欠です。</p> <p>本専攻では、以下のような創造的で柔軟な思考を備えた高度専門技術者・研究者を育成します。</p> <p>1)多様に変化する社会の要請に対し、高度の専門能力を駆使して幅広い視野から柔軟かつ迅速に対応できる人材</p> <p>2)新しい技術を自ら創出して課題を解決できる創造的能力を備えた人材</p> <p>3)高度情報化社会をリードする意欲に富み、かつ地域や国際社会への貢献に対する使命感をもった人材</p>		

本資料の内容は、構想中のものであり、今後変更する場合があります。

電気工学教育プログラム（仮称）		学位：修士（工学）または修士（学術）
【育成する人材像】 社会基盤を支える技術・研究領域である電気工学分野、とりわけ、電力インフラや電気エネルギーとその利用に関する複雑かつ幅広い学問的・社会的要請に柔軟に対応でき、培った専門的知識と創造性に立脚した課題解決能力を用いて、地域や国際社会に貢献できる高度専門技術者や研究者を育成します。	【修了後の進路】 大学院博士後期課程進学、電力会社、電気・電子関連メーカー企業、運輸機械製造業、鉄鋼・重工業等	
電子工学教育プログラム（仮称）		学位：修士（工学）または修士（学術）
【育成する人材像】 健全かつ均衡のとれた社会の発展において、ヒトと環境に関わる情報社会の基盤となる電子通信・計測制御工学分野とその複合領域に関する広範な専門能力を備え、それを活かして創造的かつ実践的に人類の福祉に寄与することのできる高度専門技術者・研究者を育成します。	【修了後の進路】 大学院博士後期課程進学、電気・電子関連メーカー企業、通信関連企業、運輸機械製造業、鉄鋼・重工業等	

アドミッション・ポリシー

半導体・情報数理専攻（博士前期課程）（新設・仮称）

数理・データサイエンス、情報工学、半導体工学に関する確かな基礎学力と論理的思考能力を基盤に、より高度な専門知識・技術を有し、時代の変化に対応して常に自己を成長させ、他者と協働することにより社会の持続的発展に貢献できる人材を育成するべく、次のような人を求めています。

1. 深い専門知識と豊かな教養を身につけ、高い倫理観を持って新しい課題や困難な問題に積極的に取り組む意欲がある人
2. 様々な学問に関心を持ち、その基礎や応用を深く理解したい人
3. 工学・情報学をもって人類の福祉に貢献しようという高い公徳心を持つ人
4. ものづくりの現場で科学技術や知的財産をもって貢献したい人
5. 国際的視野を持つ創造性豊かな技術者・研究者を目指している人

半導体・情報数理専攻（博士後期課程）（新設・仮称）

数理・データサイエンス、情報工学、半導体工学に関する最先端レベルの専門知識・技術と高い研究遂行能力を有し、時代の変化に対応して常に自己を成長させ、国内外における様々な分野の他者と協働することにより、社会の持続的発展に貢献できる人材を育成するべく、次のような人を求めています。

1. 深い専門知識と豊かな教養を身につけ、高い倫理観を持って新しい課題や困難な問題に積極的に取り組む意欲がある人
2. 様々な学問に関心を持ち、その基礎や応用を深く理解したい人
3. 工学・情報学をもって人類の福祉に貢献しようという高い公徳心を持つ人
4. ものづくりの現場で科学技術や知的財産をもって貢献したい人
5. 国際的視野を持つ創造性豊かな技術者・研究者を目指している人

本資料の内容は、構想中のものであり、今後変更する場合があります。

機械システム工学専攻（博士前期課程）（仮称）

機械系に関する基礎から応用までのものづくり教育に取り組み、広く社会で活躍できる高度な研究者・技術者の育成を目的としています。

以上のような観点から、本専攻は、次のような人を求めています。

1. 機械要素技術やコンピュータ技術による生産プロセスに関する知識と、それらを基礎から応用まで展開する知識を修得し、高い倫理観を持って新しい課題や困難な問題に積極的に取り組む意欲がある人
2. 深い専門知識と豊かな教養を身に付け、科学技術、特に機械系の分野で人類の幸福や秩序ある社会の推進に貢献することができる人
3. 国際的な視野とレベルを持って活躍する高度な技術者や教育者を目指している人

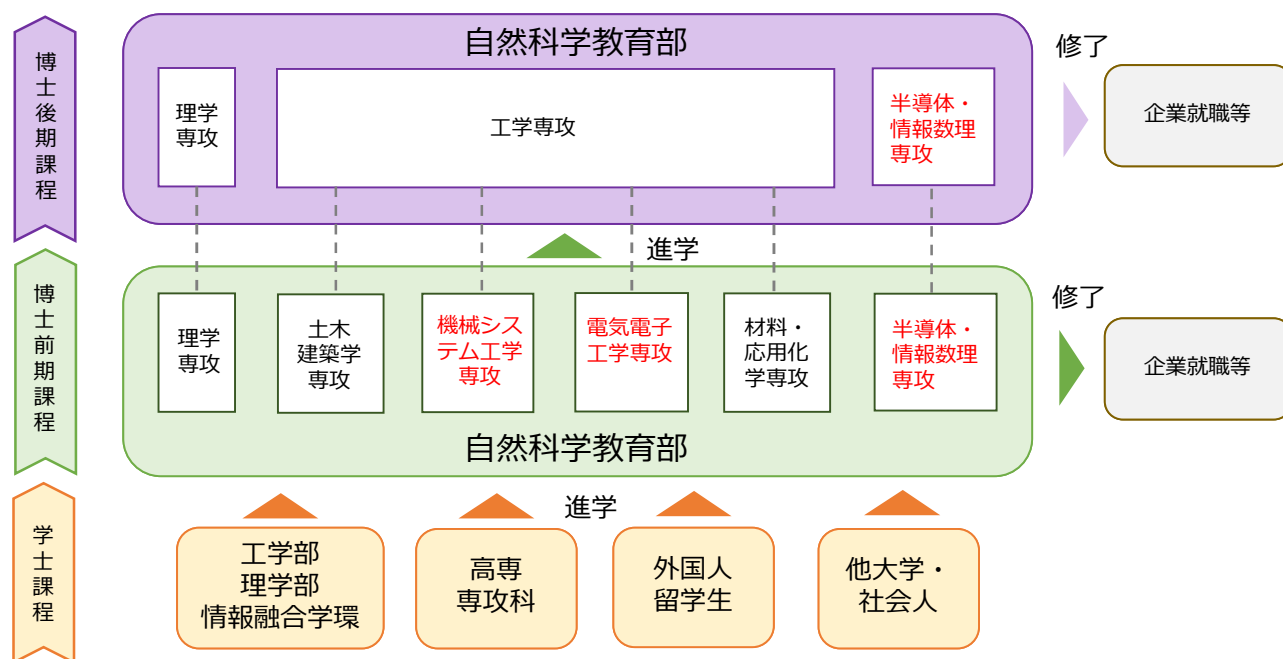
電気電子工学専攻（博士前期課程）（仮称）

電気電子分野の多様な社会的ニーズに対応できる基礎から応用までの知識を有し、創造力かつ柔軟な思考を備えると共に新たな技術を創出し、課題を解決できる高度な研究者・技術者の育成を目的としています。本専攻における教育研究対象は、電子通信工学、人間工学、エネルギー工学、電力システム工学、パルスパワー工学、計測・制御・信号処理等を含んだ広範囲の領域に及んでいます。したがって、本専攻では、確実な専門基礎知識を持っているだけではなく、幅広い領域の工学基礎知識を柔軟な思考によって自分の専門に活かすことができ、かつ新しい課題を発見し解決する意欲を持った学生の入学を望んでいます。

以上のような観点から、本専攻は、次のような人を求めています。

1. 不思議なものに対する飽くなき好奇心を持ち、論理的探求心の旺盛な人
2. 様々な学問に関心を持ち、その基礎や応用を深く理解したい人
3. 工学をもって人類の福祉に貢献しようという高い公徳心を持つ人
4. 電気電子分野のものづくりに科学技術や知的財産をもって貢献したい人
5. 国際的視野を持つ創造性豊かな技術者・研究者に成長しようという意志を持つ人

博士前期課程入学から博士後期課程までの接続



本資料の内容は、構想中のものであり、今後変更する場合があります。

半導体・情報数理専攻（博士前期課程）（新設・仮称）

数理・データサイエンス、情報工学、半導体システムに共通する基盤的知識を獲得するための「専門基礎科目」ならびに異分野交流の助けとなる広範な知識や国際交流を円滑に進めるための英語教育を提供する「専攻共通科目」を情報数理教育プログラムと半導体システム教育プログラムの共通科目として設定します。また、数理・データサイエンスならびに情報工学における専門知識、あるいは、半導体システムの設計・製造に関する専門知識に特化した「専門応用科目」を各教育プログラムの選択科目として設定します。「専門基礎科目」の中には、数理・情報系のバックグラウンドを持たない入学生に対しては、数理・情報系の基礎科目、半導体システムに関するバックグラウンドを持たない入学生に対しては、電気・電子系の基礎的科目をリメディアル教育系科目として設けることで、学部卒業時の専門とは異なる分野からの入学者の学修にも対応します。このようなカリキュラム編成により、多様な学術的背景の入学者を、数理・情報工学や半導体工学の深い専門知識とそれらを活用できるコミュニケーション能力を備えた高度専門人材として輩出することを目指します。

● 情報数理教育プログラム（新設・仮称）

数理・データサイエンス、情報工学、半導体デバイス工学の専門領域で共通して必要となる数理・データサイエンス・AIに関する基盤的リテラシーを修得する「専門基礎科目」および現実社会で必要となる他分野を理解する力、専門知識・技術を俯瞰的な立場から活用できる力、科学・技術分野で必須とされる英語運用能力を修得する「専攻共通科目」を配置します。「専門基礎科目」の中には、情報数理に関する基礎科目も含め、情報・数理を学術的背景として持たない入学生の学習にも対応します。さらに、ソフトウェア分野、ハードウェア分野、計算機応用分野、非線形解析分野、確率解析分野、統計数学分野、情報数学分野、半導体分野の主要な科目を「専門応用科目」として配置し、自らの専門領域の必要性に応じて選択できるようカリキュラムを編成します。

● 半導体システム教育プログラム（新設・仮称）

半導体工学および情報工学、数理・データサイエンスで共通して必要となる基盤的リテラシーを修得するための「専門基礎科目」、実社会において必要となる広い知識や国際活動における必須コミュニケーションツールである英語運用能力などを修得するための「専攻共通科目」、また、半導体デバイスの製造・設計やソフトウェア・ハードウェア分野の情報工学など専門領域の理解を深化させるための「専門応用科目」を配置します。「専門基礎科目」の中には、電気・電子、情報、数理、材料、化学、機械系の基礎的科目も含めることで、半導体を学術的背景として持たない入学生の学修にも対応します。また、他大学との連携講義を設定して、本学のみでカバーできない半導体分野の受講機会を設けます。このようなカリキュラム編成により、多様な学術的背景を持つ入学者の受け入れを可能とし、かつ、半導体工学の深い専門知識やそれを社会で活かせるコミュニケーション能力を備えた高度専門人材を輩出する教育を行います。

半導体・情報数理専攻（博士後期課程）（新設・仮称）

本専攻では、数理・データサイエンス、情報工学、半導体システムに共通する基盤的知識を獲得するための「専門基礎科目」、異分野研究者との協働や英語での国際協働の機会を提供する「専攻共通科目」を先端情報数理教育プログラムと先端半導体システム教育プログラムの共通科目として設定します。また、数理・データサイエンスならびに情報工学における専門知識、あるいは、半導体システムの設計・製造に関する専門知識に特化した「専門応用科目」を各教育プログラムの選択科目として設定します。

このようなカリキュラム編成により、数理・情報工学や半導体工学の専門知識を高いレベルで備え、国内外の様々な分野の研究者・開発者と協働として、自発的に社会問題を発見、解決できる高度専門人材を輩出することを目指します。

● 先端情報数理教育プログラム（新設・仮称）

指導的役割を担う高度情報専門人材の育成に資する数理・データサイエンス、情報工学、半導体デバイス工学の専門領域で共通した数理・データサイエンス・AIに関する基盤的リテラシーを修得する「専門基礎科目」および現実社会で必要となる他分野を理解する力、専門知識・技術を俯瞰的な立場から活用できる力、科学・技術分野で必須とされる英語運用能力を修得する「専攻共通科目」を配置します。さらに、情報通信領域や応用数理領域における主要な科目を「専門応用科目」として配置し、自らの専門領域の必要性に応じて選択できるようカリキュラムを編成します。

本資料の内容は、構想中のものであり、今後変更する場合があります。

● 先端半導体システム教育プログラム（新設・仮称）

半導体工学および情報工学、数理・データサイエンスで共通して必要な基盤的リテラシーを修得するための「専門基礎科目」、異分野の専門家や海外の研究者との協働を高いレベルの相互理解の下で行うことを可能とするためのコミュニケーション能力などを養うための「専攻共通科目」、半導体デバイスの製造・設計やソフトウェア・ハードウェア分野の情報工学など専門領域について、最先端の知識を得るための「専門応用科目」を配置します。また、実際の半導体デバイス製造プロセスを実際に体験する機会を提供する「半導体デバイス実習」、自身の専門以外の領域について深いグループディスカッションを行う「異分野交流ゼミナール」などの特色ある科目を設定し、半導体工学の理解およびコミュニケーション能力をさらに先鋭化させます。このようなカリキュラム編成により、半導体工学の深い専門知識および経験を有し、指導的な役割を果たすことができる高度専門人材を輩出する教育を行います。

機械システム工学専攻（博士前期課程）（仮称）

製造業におけるものづくりの基幹技術である機械工学と高度なシステム技術によって広範な問題解決に活かせるグローバルな視野を持つ技術者、研究者、教育者の育成を目的としています。

- ① 本専攻においては、学部教育から大学院博士前期課程までの6年一貫的教育を実践することで、基礎から応用までのものづくり教育に取り組み、地域や国際社会で活躍できる高度な研究者・技術者を育成します。
- ② 専門科目における各分野に精通する人材の育成に加えて、総合科学技術共同教育センター（GJEC）での教育に基づき、広い視野・柔軟な創造力、および工学の領域を越えて広く理工系人材としてグローバルな視点で俯瞰できる資質を兼ね備えた人材の育成を行います。

「専攻共通科目」として、各教育プログラムにおける専門領域を深化させるための講義「工業数学特論Ⅰ」「工業数学特論Ⅱ」を、「全専攻共通専門科目」として、企業等での経験により社会で必要とされる工学的な資質を体得させるための「インターンシップⅠ」、国際会議での発表を推奨するための「特別プレゼンテーションⅠ」を配置した上で、2つの教育プログラムを設けます。

● 機械工学教育プログラム（仮称）

機械要素技術（熱・流体、エネルギー変換、材料強度、精密加工）を主とした工学分野の知識・技術を視野に入れた、機械工学にとって基盤となる要素技術を中心とする教育・研究を通して、高度な研究能力や課題発見力・解決能力などの実践力を育成します。

● 機械システム教育プログラム（仮称）

生産プロセス（コンピュータ技術を駆使した信号の計測処理・システム制御）に関する知識・技術を主とした知的生産システムを視野に入れた、高い専門性や問題意識及び解決能力などの実践力を育成します。

電気電子工学専攻（博士前期課程）（仮称）

学部教育で工学一般の基礎領域と電気工学・電子工学分野の専門領域を学修した学生に対して、それぞれの分野での最先端の専門科目を教授すると共に、学生個々の研究課題を設定し、課題解決に向けた問題のモデル化を含めた研究手法を修得させるための教育を通して、最先端の専門知識と応用能力を培い、地域や国際社会に貢献できる高度な技術者・研究者を育成する点に特色を有します。

「専攻共通科目」として、各教育プログラムにおける専門領域を深化させるための講義「先端科学特別講義Ⅰ」やゼミナール形式科目「プロジェクトゼミナールⅠ」を、「全専攻共通専門科目」として企業等での経験により社会で必要とされる工学的な資質を体得させるための「インターンシップⅠ」、さらには国際会議での発表を推奨するための「特別プレゼンテーションⅠ」を配置した上で、2つの教育プログラムを設けます。

電気・電子系の産業界における技術進歩や情勢変化は激しく、ベンチャー企業も含めて多角的な視野を有する人材が必要とされています。そのような現状を踏まえて本専攻では電気工学および電子工学の2つの分野の基礎から応用までの知識を備えた人材の育成を行います。

● 電気工学教育プログラム（仮称）

学部教育で工学一般の基礎領域と電気工学の専門課程を学修した学生に対して、電気エネルギー分野や環境・デバイス分野のより高度で最新の電気工学に関する専門科目群を主に教授します。電気工学に深く関連する電子工学教育プログラムの科目も履修できるよう構成し、専門性を深化させるだけでなく幅をもたせることで、応用能力をも獲得できるようカリキュラムを構成しています。また、本学の特徴であるパルスパワー工学分野の多彩な科目を配置し人材の育成を図っています。

本資料の内容は、構想中のものであり、今後変更する場合があります。

教育内容、カリキュラムの特徴

● 電子工学教育プログラム（仮称）

学部教育で工学一般の基礎領域と電子工学の専門課程を学修した学生に対して、情報社会の基盤となる電子通信・計測制御工学分野とその複合領域に関する最先端レベルの専門科目群を教授します。カリキュラムは学部教育で学修した環境情報処理分野、エネルギー制御分野を中核に、電子工学に関連する専攻内の他の教育プログラム（電気工学教育プログラム）の科目も履修可能とし、専門性の深化と応用展開に対応できるように編成しています。

学修支援、経済的支援

1. 学修支援・経済的支援

寺田寅彦フェローシッププログラム（博士後期課程学生対象）

- ・研究専念支援金毎月15万円(180万)
- ・研究費年額20万、自分の研究に自由に使える研究費も支給される
- ・授業料が全額免除される

Well-Being社会を先導する異分野横断型博士人材育成プログラム（博士後期課程学生対象）

- ・生活費相当額：毎月18万円、研究費年額40万
- ・研究費年額40万、自分の研究に自由に使える研究費も支給される

熊本大学大学院博士課程奨学金給付制度（KDS）

- ・給付対象者は、博士課程に在学する学生で、入学試験の成績、学業成績又は学術研究活動において、特に優秀な成果を修めたと認められる者
- ・支援対象額は、9月末までの修了予定者等は267,900円、左記以外の者は、535,800円

熊本大学大学院博士課程奨学制度（KWS）

- ・熊本大学大学院博士課程の学生をリサーチ・アシスタント又はティーチング・アシスタントとして雇用し、その対価として年間授業料の半額相当の経済的支援を行う

2. 留学等の海外渡航に関する支援

国際活動支援 A. 国際会議旅費・海外インターンシップ旅費

- ・国際会議発表：旅費（地域毎一律 * 旅費一覧表参照）+ 宿泊費（旅行日程 1泊当たり 5,000円）
- ・海外インターンシップ：旅費（地域毎一律）+ 宿泊費（旅行日程 1泊当たり 3,000円）

国際活動支援 B. 登録料・国内開催国際学会旅費

- ・国際会議参加登録料（国内外、オンライン開催）原則として一人あたりの上限3万円
- ・国際会議派遣旅費（国内開催）交通費および宿泊費一人あたり上限 7万円

独立行政法人日本学生支援機構(JASSO)による奨学金

- ・自然科学教育部に所属する日本人学生を 1~12ヶ月程度海外協定校の研究室に派遣し、研究プロジェクトへの参加を通じ、研究力を強化しグローバルな視点を涵養することを目指しています
- ・支援内容：JASSO（独立行政法人日本学生支援機構）奨学金 月額 6万円~10万円

入学科・授業料（2023年11月現在）

入学科：282,200円

授業料：535,800円（年額）

本資料の内容は、構想中のものであり、今後変更する場合があります。

アンケート（在学生用）

工学部 土木建築学科、機械数理工学科、情報電気工学科、材料・応用化学科の3年次生
が対象です。

本学への入学希望者の実数把握が目的のため、
可能な限り多くの方のご意見、ご協力をいただきますようよろしくお願いします。

* 必須の質問です

1. 1. あなたの所属する学科を選択してください。 *

1つだけマークしてください。

- ①土木建築学科
 ②機械数理工学科
 ③情報電気工学科
 ④材料・応用化学科

以降の設問は、「熊本大学大学院自然科学教育部の改組構想（簡易版）」ま
たは「熊本大学大学院自然科学教育部の改組構想（詳細版）」 をご覧にな
った上で、ご回答ください。

2. 2. 「半導体・情報数理専攻（仮称、以下同様）」について、興味を持ちま
したか？ *

1つだけマークしてください。

- ①非常に興味がある
 ②ある程度興味がある
 ③あまり興味がない
 ④全く興味がない

3. 3. 「機械システム工学専攻（仮称、以下同様）」について、興味を持ちましたか？ *

1つだけマークしてください。

- ①非常に興味がある
- ②ある程度興味がある
- ③あまり興味がない
- ④全く興味がない

4. 4. 「電気電子工学専攻（仮称、以下同様）」について、興味を持ちましたか？ *

1つだけマークしてください。

- ①非常に興味がある
- ②ある程度興味がある
- ③あまり興味がない
- ④全く興味がない

5. 5. 卒業後の進路について、どのように考えていますか？ *

1つだけマークしてください。

- ①大学院に進学
- ②就職
- ③その他

6. 6. (設問5で「①大学院に進学」と回答した方のみ)

次の進学先のうち、どこを受験したいと思いますか？

1つだけマークしてください。

- ①熊本大学大学院自然科学教育部 半導体・情報数理専攻
- ②熊本大学大学院自然科学教育部 機械システム工学専攻
- ③熊本大学大学院自然科学教育部 電気電子工学専攻
- ④熊本大学大学院自然科学教育部 土木建築学専攻
- ⑤熊本大学大学院自然科学教育部 材料・応用化学専攻
- ⑥その他の大学院

7. 7. (設問6で①～⑤を回答した方のみ)

設問6で回答した進学先に合格した場合、入学を希望しますか？

1つだけマークしてください。

- ①入学する
- ②併願校の合否によって判断する
- ③その他の状況によって判断する

8. 8. 「半導体・情報数理専攻」、「機械システム工学専攻」、「電気電子工学専攻」、「土木建築学専攻」、「材料・応用化学専攻」に期待すること、大学院へ進学する(進学しやすくする)ために必要なこと・望むこと(教育面、経済面、環境面等)などの意見・要望があれば、自由に記載してください。

アンケート（就職実績のある企業、修了後就職が想定される企業等）

就職実績のある企業、修了後就職が想定される企業等を対象としています。

本学への入学希望者の実数把握が目的のため、

可能な限り多くの方のご意見、ご協力をいただきますようよろしくお願いいたします。

* 必須の質問です

1. 1. 貴社・貴団体の所在地（本社）を選択してください。*

1つだけマークしてください。

- 北海道
- 青森県
- 岩手県
- 宮城県
- 秋田県
- 山形県
- 福島県
- 茨城県
- 栃木県
- 群馬県
- 埼玉県
- 千葉県
- 東京都
- 神奈川県
- 新潟県
- 富山県
- 石川県
- 福井県
- 山梨県
- 長野県
- 岐阜県
- 静岡県
- 愛知県
- 三重県
- 滋賀県
- 京都府
- 大阪府
- 兵庫県
- 奈良県
- 和歌山県

- 鳥取県
- 島根県
- 岡山県
- 広島県
- 山口県
- 徳島県
- 香川県
- 愛媛県
- 高知県
- 福岡県
- 佐賀県
- 長崎県
- 熊本県
- 大分県
- 宮崎県
- 鹿児島県
- 沖縄県

2. 2. 貴社・貴団体の主たる業種を選択してください。*

1つだけマークしてください。

- ①農業, 林業
- ②漁業
- ③鉱業, 採石業, 砂利採取業
- ④建設業
- ⑤製造業
- ⑥電気・ガス・熱供給・水道業
- ⑦情報通信業
- ⑧運輸業, 郵便業
- ⑨卸売業, 小売業
- ⑩金融業, 保険業
- ⑪不動産業, 物品賃貸業
- ⑫学術研究, 専門・技術サービス業
- ⑬宿泊業, 飲食サービス業
- ⑭生活関連サービス業, 娯楽業
- ⑮教育, 学習支援業
- ⑯医療, 福祉
- ⑰複合サービス事業
- ⑱サービス業 (他に分類されないもの)
- ⑲公務 (他に分類されるものを除く)
- ⑳①～⑱以外の業種

3. 3. ⑳①～⑱以外の業種と回答した方は業種を記入ください。

4。 4. 貴社・貴団体の従業員数について選択してください。 *

1つだけマークしてください。

- ①50人未満
- ②50人～100人未満
- ③100人～500人未満
- ④500人～1,000人未満
- ⑤1,000人～2,000人未満
- ⑥2,000人～5,000人未満
- ⑦5,000人以上

以降の設問は、「熊本大学大学院自然科学教育部の改組構想（簡易版）」または「熊本大学大学院自然科学教育部の改組構想（詳細版）」をご覧ください。

5。 5. 「半導体・情報数理専攻（仮称）」が育成する人材について、実社会で必要だと思われますか？ *

1つだけマークしてください。

- ①極めて必要である
- ②どちらかという必要である
- ③わからない
- ④どちらかという必要ではない
- ⑤全く必要ではない

- 6。 6. 「機械システム工学専攻（仮称、以下同様）」が育成する人材について、実社会で必要だと思われますか？ *

1つだけマークしてください。

- ①極めて必要である
- ②どちらかという必要である
- ③わからない
- ④どちらかという必要ではない
- ⑤全く必要ではない

- 7。 7. 「電気電子工学専攻（仮称、以下同様）」が育成する人材について、実社会で必要だと思われますか？ *

1つだけマークしてください。

- ①極めて必要である
- ②どちらかという必要である
- ③わからない
- ④どちらかという必要ではない
- ⑤全く必要ではない

- 8。 8. 「半導体・情報数理専攻（仮称）」を修了した博士前期課程（修士）の学生の採用意向について、お聞かせください。 *

1つだけマークしてください。

- ①是非採用したい
- ②採用に向けて前向きに検討したい
- ③わからない
- ④採用したいとは思わない

- 9。 9. 「半導体・情報数理専攻（仮称）」を修了した博士後期課程（博士）の *
学生の採用意向について、お聞かせください。

1つだけマークしてください。

- ①是非採用したい
- ②採用に向けて前向きに検討したい
- ③わからない
- ④採用したいとは思わない

- 10。 10. 「機械システム工学専攻」を修了した学生の採用意向について、お聞 *
かせください。

1つだけマークしてください。

- ①是非採用したい
- ②採用に向けて前向きに検討したい
- ③わからない
- ④採用したいとは思わない

- 11。 11. 「電気電子工学専攻」を修了した学生の採用意向について、お聞かせ *
ください。

1つだけマークしてください。

- ①是非採用したい
- ②採用に向けて前向きに検討したい
- ③わからない
- ④採用したいとは思わない

12. 12. リカレント教育、リスキリングの観点から、貴社・貴団体の社員・職員^{*}を本学大学院に入学させたいと思われませんか？（複数回答可）

当てはまるものをすべて選択してください。

- ①半導体・情報数理専攻に入学させたい（修士）
- ②機械システム工学専攻に入学させたい（修士）
- ③電気電子工学専攻に入学させたい（修士）
- ④土木建築学専攻に入学させたい（修士）
- ⑤材料・応用化学専攻に入学させたい（修士）
- ⑥半導体・情報数理専攻に入学させたい（博士）
- ⑦工学専攻に入学させたい（博士）
- ⑧①～⑦以外の大学院に入学させたい
- ⑨検討していない

13. 13. 新専攻および改組予定の「半導体・情報数理専攻」、「機械システム工学専攻」、「電気電子工学専攻」に期待すること、社会人学生が大学院へ入学するために必要なこと・望むこと（教育面、経済面、環境面等）などの意見・要望があれば、自由に記載してください。

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。

Google フォーム

アンケート（企業等へ就職している社会人）

企業等へ就職している社会人を対象としています。

本学への入学希望者の実数把握が目的のため、

可能な限り多くの方のご意見、ご協力をいただきますようよろしくお願いします。

* 必須の質問です

1. 1. あなたが所属する会社・団体の所在地（本社）を選択してください。*

1つだけマークしてください。

- 北海道
- 青森県
- 岩手県
- 宮城県
- 秋田県
- 山形県
- 福島県
- 茨城県
- 栃木県
- 群馬県
- 埼玉県
- 千葉県
- 東京都
- 神奈川県
- 新潟県
- 富山県
- 石川県
- 福井県
- 山梨県
- 長野県
- 岐阜県
- 静岡県
- 愛知県
- 三重県
- 滋賀県
- 京都府
- 大阪府
- 兵庫県
- 奈良県
- 和歌山県

- 鳥取県
- 島根県
- 岡山県
- 広島県
- 山口県
- 徳島県
- 香川県
- 愛媛県
- 高知県
- 福岡県
- 佐賀県
- 長崎県
- 熊本県
- 大分県
- 宮崎県
- 鹿児島県
- 沖縄県

2. 2. あなたが所属する会社・団体の主たる業種を選択してください。*

1つだけマークしてください。

- ①農業, 林業
- ②漁業
- ③鉱業, 採石業, 砂利採取業
- ④建設業
- ⑤製造業
- ⑥電気・ガス・熱供給・水道業
- ⑦情報通信業
- ⑧運輸業, 郵便業
- ⑨卸売業, 小売業
- ⑩金融業, 保険業
- ⑪不動産業, 物品賃貸業
- ⑫学術研究, 専門・技術サービス業
- ⑬宿泊業, 飲食サービス業
- ⑭生活関連サービス業, 娯楽業
- ⑮教育, 学習支援業
- ⑯医療, 福祉
- ⑰複合サービス事業
- ⑱サービス業 (他に分類されないもの)
- ⑲公務 (他に分類されるものを除く)
- ⑳ ①～⑱以外の業種

3. 3. ⑳①～⑱以外の業種と回答した方は業種を記入ください。

4。 4. あなたが所属する会社・団体の従業員数について選択してください。 *

1つだけマークしてください。

- ①50人未満
- ②50人～100人未満
- ③100人～500人未満
- ④500人～1,000人未満
- ⑤1,000人～2,000人未満
- ⑥2,000人～5,000人未満
- ⑦5,000人以上

5。 5. 現在のあなたが所属する会社・団体での勤続年数を選択してください。 *

1つだけマークしてください。

- ①3年未満
- ②3年～5年未満
- ③5年～10年未満
- ④10年以上

6。 6. あなたの最終学歴について選択してください。 *

1つだけマークしてください。

- ①高等学校卒業
- ②高等専門学校（高専）卒業
- ③高等専門学校（高専専攻科）修了
- ④大学（学部）卒業
- ⑤大学院修士課程（博士前期課程）修了
- ⑥大学院博士課程（博士後期課程）修了
- ⑦その他

以降の設問は、「熊本大学大学院自然科学教育部の改組構想（簡易版）」または「熊本大学大学院自然科学教育部の改組構想（詳細版）」をご覧ください。

7. 7. 「半導体・情報数理専攻（仮称）」が育成する人材について、実社会で必要だと思われませんか？ *

1つだけマークしてください。

- ①極めて必要である
- ②どちらかという必要である
- ③わからない
- ④どちらかという必要ではない
- ⑤全く必要ではない

8. 8. 「機械システム工学専攻（仮称、以下同様）育成する人材について、実社会で必要だと思われませんか？ *

1つだけマークしてください。

- ①極めて必要である
- ②どちらかという必要である
- ③わからない
- ④どちらかという必要ではない
- ⑤全く必要ではない

- 9。 9. 「電気電子工学専攻（仮称、以下同様）育成する人材について、実社会 *
で必要だと思われますか？

1つだけマークしてください。

- ①極めて必要である
 ②どちらかという必要である
 ③わからない
 ④どちらかという必要ではない
 ⑤全く必要ではない

- 10。 10. 熊本大学大学院自然科学教育部で学びたいと思えますか？ *

1つだけマークしてください。

- ①学びたい
 ②どちらかといえば学びたい
 ③どちらかといえば学びたくない
 ④学びたくない（学ぶ必要がない）

- 11。 11. （設問10で①または②と回答した方のみ）

どの専攻を受験したいと思えますか？

1つだけマークしてください。

- ①半導体・情報数理専攻（修士）
 ②機械システム工学専攻（修士）
 ③電気電子工学専攻（修士）
 ④土木建築学専攻（修士）
 ⑤材料・応用化学専攻（修士）
 ⑥半導体・情報数理専攻（修士）
 ⑦工学専攻（修士）
 ⑧①～⑦以外の専攻

12. 12. (設問11で①～⑦を回答した方のみ)

設問11で回答した大学院に合格した場合、入学を希望しますか。

1つだけマークしてください。

- ①入学する
- ②その他の状況によって判断する

13. 13. 新専攻および改組予定の「半導体・情報数理専攻」、「機械システム工学専攻」、「電気電子工学専攻」に期待すること、大学院へ入学するために必要なこと・望むこと（教育面、経済面、環境面等）などの意見・要望があれば、自由に記載してください。

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。

Google フォーム